

◆活用例② 服薬指導した内容を

そのまま薬歴の服薬指導文書へ簡単に転記◆

服薬指導画面から薬歴編集をクリック
「くすりのしおり®」を表示

服薬指導画面から薬歴編集をクリック
「くすりのしおり®」を表示

ハイスクリ薬の印
「PharnesII」にはハイスクリ薬に
印がつく機能があります

引用したい文章を選択

引用したい文章を選択

ワンクリックでかんたんに転記

ワンクリックでかんたんに転記

くすりのしおり®

当協議会が1993年から作成している医療用医薬品ごとに必要最小限の情報をまとめた情報シートで、医療提供者と患者さんとのコミュニケーションツールとして広く活用されています。

また、バリアフリー対策として、在日外国人向けに英語版を、視覚障がい者向けに音声版を用意しています。

<http://www.rad-ar.or.jp/siori/index.html>

保険薬局の服薬支援(指導)は「薬剤情報文書」に基づいて口頭で実施されることもありますが、当協議会が行った医療・医薬品に関するアンケート調査(2010年)²⁾で、「患者さんはより詳しくくすりの情報を薬剤師から提供してもらう」ことを希望しており、さらに自宅でも読みなおせる紙媒体での提供を要望されています。このような機能でしたら、保険薬局のカウンターで薬剤師の先生方にも「くすりのしおり®」を利用しやすくなり、患者さんにわかりやすい服薬指導・印刷物を提供しやすくなるのではないのでしょうか。「PharnesII」の機能を利用して、特に、ハイスクリ薬の薬剤管理指導³⁾に活用される予定の薬局もあるそうです。

「くすりのしおり®」は、今後、診療所向けのレセプトコンピューター・一体型電子カルテシステム「Medicom-HRII」(三洋電機製)への搭載も予定されています。このような機器を用いて、「くすりのしおり®」が薬物治療選択の際や服薬指導の際に利用しやすくなることにより、患者さんがご自身のくすりについての理解をより深め、ひいてはアドヒアランスの向上や患者さん参加型の医療につながることを期待します。

- 1) くすりの適正使用協議会、2008、第41回日本薬剤師会学術大会ポスター発表、「対話のある医療」を目指して-新版「くすりのしおり®」が医療担当者と患者に十分に活用されるための調査報告-
http://www.rad-ar.or.jp/02/07_event/kanren/pdf/41th_nichiyakugakkai_3.pdf
- 2) くすりの適正使用協議会、2010、『医療・医薬品に関する意識調査』
http://www.rad-ar.or.jp/03/05_release/nr10-101027.pdf
- 3) 日本薬剤師会、2009、薬局におけるハイスクリ薬の薬学的管理指導に関する業務ガイドライン(第1版)

[注1] 「PharnesII」に関する内容お問い合わせ先:

三洋電機株式会社 コマーシャルカンパニー メディコム事業部 調剤システム部 調剤企画課 TEL:03-5816-5158